

乍恐口上袖控

一 魚鳥口錢之義從

先年毎月朔日問屋より

御勘定申上候節手前分

目録相添口錢相廻し

来り候、然所未た口錢

目録等相廻し不申候^ニ付

問屋へ相尋遣し候所御勘

定相仕舞置候事ゆへ

其段私方より御伺申上

可然様申出候間、何卒先規

之通毎月朔日御勘定

相済候後私手前之分ハ

口錢目録共問屋より

相廻し候様被仰付

被為下候ハ、難有仕合奉存候

一 先達^而御願申上置候

たいこ之義人別不残

私手先より差出し来り候所

此度ハ問屋より申上御聞届

被仰付候旨伝承仕候

尤此度御仕法替之義^ニハ

御座候得共私手前より差出し

来り候義ハ従往古之

義^{ニ而}拾ヶ年計已前

魚鳥座出来^ニ付私手先^ニ

相成候義^{ニ而}ハ無御座候

乍併一旦御取極相済候

義^ニ御座候得ハ当時相勤

居候者之内四五人私手先

付^与被仰付被為下候ハ、

難有仕合奉存候、右之段

乍恐急々□御評儀被

仰付被為下候ハ、重々難有

仕合奉存候、此段宜敷様

偏奉願上候、以上

大谷藤之丞 (印)

亥七月

5—16—2

(端裏書)

「大谷藤之丞殿 村瀬庄左衛門」

五月十日

一 干鰯口錢之儀是迄五歩

□_ニ候へ共此度二歩_ニ御減少

被仰付候間此段差含

居可申事